

株式会社日本農業サポート研究所 平成29年度事業実績

年	月	事業内容
2017年～ 2018年	4月～3月	農研機構が中心となって進めている、革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)「養水分制御を基盤とした樹体管理技術の確立による高品質カンキツ果実連年安定生産の実証」で、弊社はコンソーシアムの一員として「持続可能なカンキツ作経営ビジネスモデルの開発」を担当。愛媛県・広島県のカンキツ産地をはじめ、東京の市場関係者、果物専門店でのヒアリング調査などを行った。
	4月～3月	平成28年度農林水産省補正予算事業「革新的技術開発・緊急展開事業のうち人工知能未来農業創造プロジェクト推進事業 1 熟練農業者の技術を継承するシステムの横展開」を実施した全国農業指導ネットワーク協議会(理事長:山田正美氏)の事務局を弊社が担当。GAP、水稲の特別栽培や野菜の有機栽培について、熟練農業者の知識、ノウハウをICTやAIを活用して学習できるシステムを作成し、現場で実証した。
	7月～2月	弊社がJA徳島中央会から若手営農指導員のための研修を受託し、7月～2月まで「毒物劇物取扱者の資格対策」「産地育成企画力研修」などの講義・実習をJA徳島中央会のある徳島県JA会館で行った。
	8月上旬	2017年度JICA課題別研修「稲作技術向上」で、「農家支援のためのICT活用」について、弊社代表が講師を務めた。この研修コースは、JICAから委託された一般社団法人海外農業開発協会(OADA)が実施し、アジア、アフリカから12名の研修員が参加した。
	9月下旬	神奈川県で「平成28年度普及指導活動外部評価」が行われ、弊社代表が評価委員として出席、とりまとめに携わった。
	10月中下旬	農林水産省が進めている農業情報標準化の調査の一環で、弊社代表がタイ・ベトナム・マレーシアの3か国を10月中旬から下旬にかけて訪問した。この調査はNECソリューションイノベータ株式会社から委託され、実施された。
	12月中旬	東京農業大学国際食料情報学部国際バイオビジネス学科3年生の学生を対象に、稲泉博己先生担当『バイオビジネス普及論』の特別講義で、弊社代表が「タイでの農業ICTプロジェクトの結果と教訓」のテーマで、普及活動でのICT活用の可能性について講義を行った。
	3月下旬	「平成29年度 ICAアフリカ農民組織形成・運営研修」で、弊社代表が、「日本の普及事業の概要」について、アフリカからの研修員など12名に対して、研修を行った。なお、この研修は、(一財)アジア農業協同組合振興機関(IDACA)が、アフリカ地域における農業生産性向上及び所得向上に資するため、農協または農家グループの活性化の中心を担う中核リーダーの育成を支援することを目的に実施された。